

	都 市	交通	行程・宿泊地・食事（朝・昼・夕）	
① 11/30 (日)	成 田 空 港 発 関 西 空 港 発	航空機	●成田空港発（集合予定時刻：午前8時00分ごろ） ●関西空港発※（集合予定時刻：午前8時00分ごろ） 空路、マレーシアの首都クアラルンプールへ 【時差：日本より1時間遅れ】 到着後、夕食をとりホテルへ	※関西空港発着ご希望の方は、お申し込み時の 空席状況により、追加料 金がかかる場合がございます。 お問い合わせください。
	クアラルンプール着	専用車	クアラルンプール泊 朝× 昼機 夕○	
② 12/1 (月)	クアラルンプール	専用車	<終日：市内視察訪問> ★ASEAN事務局訪問・署名提出 ＊市民団体と交流	
			クアラルンプール泊 朝○ 昼○ 夕○	
③ 12/2 (火)	クアラルンプール	専用車	<終日：クアラルンプール市内見学> ●国立博物館 ◎日本人墓地 ◎虐殺犠牲者の碑 ◎プドウ刑務所跡 ◎王宮 ◎国家記念碑	
			クアラルンプール泊 朝○ 昼○ 夕○	
④ 12/3 (水)	クアラルンプール発 マラッカ着	専用車	陸路、マラッカへ <着後：マラッカ市内見学> ◎青雲亭寺 ◎オランダ広場 ◎マラッカ・キリスト教会 ◎セントポール教会 ◎サンチャゴ砦 ◎ジョンカーズトリート散策 ◎水上モスク	
			マラッカ泊 朝○ 昼○ 夕○	
⑤ 12/4 (木)	マラッカ発 ネグリセンビラン州着	専用車	陸路、ネグリセンビラン州へ 着後：市内見学 ◎マカティン州の墓 ◎イロンロン村追悼碑 など 再び、クアラルンプールへ 夕食後、空港へ移動 夜：空路、クアラルンプール発 帰国の途へ	
	クアラルンプール着 発	航空機	機 中 泊 朝○ 昼○ 夕○	
⑥ 12/5 (金)	関 西 空 港 着 成 田 空 港 着		●関西空港着※（到着予定時刻：午前5時40分ごろ） ●成田空港着（到着予定時刻：午前7時15分ごろ）	
			朝機 昼× 夕×	

【ご注意】 ※現地事情によりコース前後の変更をさせていただく場合がございます。受入先の都合により、視察訪問先が変更になる場合がございます。

- 利用航空会社：日本航空、マレーシア航空
- 宿泊予定ホテル：クアラルンプール＝Mercure Shaw Parade、Sunway Velocity Hotel Kuala Lumpur／マラッカ＝Noble Resort Hotel Melaka、Swiss Garden Hotel Melaka ※または同等クラスのホテル ※ホテルはバスタブがないタイプのお部屋となる場合がございます。
- 旅程表のマーク：●＝入場して見学、◎＝下車して見学



ASEANについて

Association of Southeast Asian Nations—東南アジア諸国連合

のちにASEANとなる国々は唯一独立を守ったタイを除いて、20世紀に入っても英国、フランス、オランダなどの植民地支配を受けていました。第二次世界大戦中は日本の軍政下に置かれ、独立を果たしたのは戦後のことです。1960年代に入り、ベトナム戦争を契機にこれらの国々の間で地域協力の動きが活性化し、1967年の「バンコク宣言」によってASEANが設立されました。原加盟国はタイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシアの5か国。1984年にブルネイが加盟後、1995年にベトナム、1997年にラオス、ミャンマー、1999年にカンボジアが加盟。現在は10か国で構成されています。最近、東ティモールの加盟が決まり、ASEANの加盟国は11か国になります。地域協力としてのASEANは、6億7000万人を超える人口規模で、過去10年間に高い経済成長を見せており、2030年にはASEANの総合GDPは日本のGDPを上回ると推測されています。インドネシアは現在、経済開発協力機構（OECD）の加盟を目指しています。今後、世界の「開かれた成長センター」となる潜在力が、世界各国から注目されています。

マレーシアの歴史

他国の植民地支配から独立。多民族国家として発展する国

15世紀にマラッカ王国が成立し、アジア交易の拠点として栄えましたが、1511年にポルトガルが支配。1641年にオランダ、1786年にイギリスが領有し、第二次世界大戦中は日本軍が占領しました。戦後、再びイギリスの支配がはじまりましたが、マレー人の独立機運が高まり、1957年にマラヤ連邦として念願の独立を達成しました。

1963年にシンガポール、サバ、サラワクを加えてマレーシア連邦を成立させましたが、1965年にシンガポールが脱退したため、現在のマレーシアとなりました。

多民族、多文化が共存するマレーシアは、1971年にイスラム教を国教とする、マレー語を公用語とする、マレー系住民に優先的地位を与えるなどの「ブミプトラ政策」と、1981年の日本、韓国を見習えという「ルック・イースト政策」を実施し、マレーシアは1971年から1990年までの間、平均6.7%の経済成長率を達成し、さらに1992年には「ビジョン2020」を提唱し、先進国の地位実現に向けて発展を続けています。



訪問地 紹介

● クアラルンプール

色彩豊かな文化の真ただ中にあるモダンなメトロポリス

地元の人々には「KL（ケーエル）」の愛称で親しまれる首都・クアラルンプール。「泥川の交わるところ」という意味のマレー語を語源に持ち、1800年代に錫鉱山の発見と共に発展しました。旧中央駅を中心に広がる美しいムア建築とペトロナスツインタワーをはじめとする近代建築と自然が見事に調和された美しい都市です。市内は交通機関が充実しており、主な観光スポットへは公共交通でアクセスが可能です。またバラエティ豊かなグルメは多民族国家を象徴しています。

● マラッカ

マレー半島南部にある世界遺産の町、マラッカ。世界中から観光客が訪れるマレーシア随一の観光スポットです。15世紀にマラッカ王国が誕生し、マラッカ海峡を東西貿易の要衝として大きな富を築きます。16世紀に入ると、ポルトガル、オランダ、イギリスによる統治が続きます。マラッカ王国時代のオリエンタルな雰囲気と、統治時代の西洋の街並みの融合を見ることができます。

マレーシア国立博物館

伝統的マレー様式の建築を再現して建てられたこの博物館は、レイクガーデンの南側に位置し、マレーシアの歴史、文化、伝統習慣、歴史遺産などが紹介されています。2階にはろう人形による各民族の暮らしや儀式、服装などが、3階には動物の生態が展示されています。マレーシアの豊かな文化や複雑であった歴史を深く探訪する事が出来ます。



独立宣言記念館

英国領時代に建てられたコロニアル建築物。当時は社交クラブとして使われ、現在は歴史資料館になっています。初代首相のトUNK・アブドゥル・ラーマンは、イギリスから独立する条約を持ち帰り、この建物の前で独立を発表。翌年の1957年、マラヤ連邦として独立を果たしました。



マレーシア基本情報

- 国名：マレーシア Malaysia（マレー語：[malajsiə]）
- 首都：クアラルンプール
- 人口：3555万7千人（2024年推定）
- 面積：33万621平方キロメートル（日本の約0.9倍）
- 言語：国語はマレー語。他に英語、中国語、タミル語など
- 通貨：マレーシア・リンギット(RM)
- RM1＝約34円 2025年5月現在

- 時差：日本より1時間遅れ
- 気候：マレーシアの年間の平均気温は約27℃。高温多湿の南国です。一年中、Tシャツ、短パン、サンダルといった夏の服装で過ごすことができます。乾季と雨季があり、マレー半島東部やボルネオ島は10～3月、西部は5～9月が雨の多い季節になります。

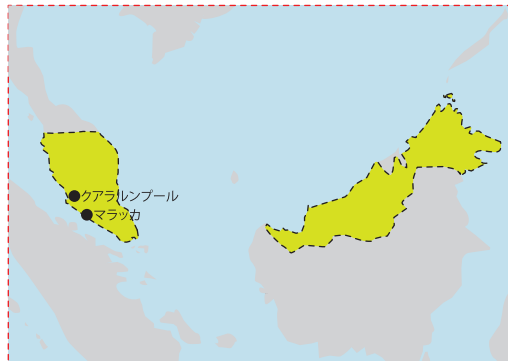
現地の気温 11月

都市	最低気温	最高気温
クアラルンプール	24℃	32℃
東京	12℃	17℃

旅の醍醐味 食！

マレーシア料理

多民族国家のマレーシアでは、マレー・中国・インド系の3民族の料理に、中国とマレーが合わさった「ニョニャ」料理があります。人気の定番料理は、ナシゴレン(焼き飯)やミーゴレン(焼きそば)です。



マレーシア

